

第21回参議院議員通常選挙 武見敬三先生 三選ならず

さる7月29日、第21回参議院議員通常選挙が施行され、日本医師連盟推薦の比例代表統一候補でありました武見敬三先生には自民党候補者中の次点(15位)となり、惜しくも三選を果たすことができませんでした。

武見先生の全国得票数は186,616票と、平成13年7月の第19回参議院議員通常選挙で獲得した得票数を約4万票も下回り、さらには、平成16年7月に西島英利候補を擁立した第20回参議院議員通常選挙の得票数を約6万3千票も下回るという、まことに不本意な結果に終わりました。

この中で道内得票数は8,016票と、平成16年7月の第20回参院選(西島英利候補)での得票数に比べて倍増し、かつ、第19回参院選の得票数には千票ほど上乗せしており、自由民主党への大逆風の中で健闘したものと思います。

このことは、連盟員各位はじめ、私どもの医師連盟活動の良き理解者であります北海道柔道整復師連盟、北海道鍼灸師連盟ほか多数の友好団体の皆様方のご尽力のお陰であり、本紙上にて心より感謝を申し上げ、ご報告いたします。

<道内>

ブロック	第21回 (H19.7.29)	第20回 (H16.7.11)		第19回 (H13.7.29)		参考
	武見敬三氏	西島英利氏	増 減 (21回-20回)	武見敬三氏	増 減 (21回-19回)	増 減 (20回-19回)
中 央	3,213	1,422	1,791	2,850	363	▲1,428
道 南	687	299	388	640	47	▲341
後 志	558	252	306	673	▲115	▲421
日 胆	423	286	137	383	40	▲97
空 知	526	293	233	454	72	▲161
道 北	1,365	461	904	862	503	▲401
北 見	559	146	413	373	186	▲227
道 東	685	501	184	825	▲140	▲324
合 計	8,016	3,660	4,356	7,060	956	▲3,400

<全国>

ブロック	第21回 (H19.7.29)	第20回 (H16.7.11)		第19回 (H13.7.29)		参考
	武見敬三氏	西島英利氏	増 減 (21回-20回)	武見敬三氏	増 減 (21回-19回)	増 減 (20回-19回)
北 海 道	8,016	3,660	4,356	7,060	956	▲3,400
東 北	14,951	15,559	▲608	17,844	▲2,893	▲2,285
東 京	21,120	12,476	8,644	20,732	388	▲8,256
関東甲信越	32,712	37,992	▲5,280	44,056	▲11,344	▲6,064
中 部	25,019	25,640	▲621	31,056	▲6,037	▲5,416
近 畿	6,085	34,497	▲28,412	26,705	▲20,620	7,792
中 国 四 国	22,304	40,096	▲17,792	34,082	▲11,778	6,014
九 州	56,409	80,506	▲24,097	45,507	10,902	34,999
合 計	186,616	250,426	▲63,810	227,042	▲40,426	23,384

「第21回参議院議員選挙」の結果と総括

11月11日(日)開催の平成19年度第2回郡市代表者会で報告いたしました「第21回参議院議員選挙」の結果と総括を掲載いたします。このことを踏まえて、執行部としては、次期選挙に向けてなお一層、連盟員各位への迅速かつ適切な情報提供を図るとともに、郡市医師連盟と連携・協調して対応してまいりたいと考えております。なお、この総括は当連盟ホームページの連盟員専用ページにも掲載しております。

「第21回参議院議員選挙」の結果と総括

〔選挙結果〕

武見敬三氏 得票総数 186,616票
自由民主党 比例代表 15位(次点)

〔全国の得票結果〕

- ①今回の選挙における武見候補の得票数は、前々回選挙(H13年)の227,042票を大きく下回り、約40,000票減の186,616票であった。
- ②都道府県別得票数では、上位から福岡県22,820票、東京都21,120票、愛知県8,967票、鹿児島県8,457票、北海道8,016票となっており、逆に下位は、奈良県294票、滋賀県310票、和歌山県491票、京都府527票、高知県691票であった。47都道府県中35府県で票を減らしており、前回票を上回ったのは12都道県であった。
- ③ブロック別では、票を伸ばしたのは北海道の956票と九州の10,902票であり、票を減らしたのは、中四国で11,778票、東京を含む関東甲信越で11,344票、中部で6,037票、東北で2,893票、医師連盟として同候補を推薦しなかった近畿ブロックで20,620票であった。
- ④日医連のA連盟員一人あたり得票数は、全国平均で2.2票であった。都道府県別では、佐賀県7.8票、鹿児島県6.9票、福岡県5.9票、熊本県4.6票、大分県4.3票、長崎県4.2票と九州で高く、鳥取県4.0票、福井県3.9票、石川県、山口県、栃木県が3.8票と続き、北海道は3.2票であった。
- ⑤近畿ブロックは武見候補非推薦という唯一のブロックであったが、このうち奈良県は武見候補294票に対して国民新党の自見庄三郎候補が1,276票、茨城県は武見候補1,170票に対し、自見候補5,949票であった。

〔北海道の得票結果〕

- ①北海道内における得票数は、前々回(H13年)の選挙の7,060票より956票多い8,016票であった。また前回(H16年)の西島選挙での3,660票と比較すると2倍以上の大幅な伸びであった。
- ②ブロック別では、中央、道南、日胆、空知、道北、北見で得票を伸ばしているが、後志、道東では伸びなかった。郡市医師連盟別得票数では、札幌市2,846票、旭川市743票、函館市457票、小樽市454票、北見368票、釧路市321票、渡島201票、苫小牧市200票の順となっている。前回よりも得票を伸ばした順では、札幌市363票、旭川市215票、北見153票、深川95票、上川中央78票となっている。
- ③A連盟員一人あたりでは、赤平市22.7票、上川中央12.0票、三笠市11.8票、夕張市10.3票、宗谷8.6票、遠軽8.3票、深川7.7票、根室市外三郡7.2票となっている。

〔道医連の活動〕

- ①日医連での武見候補推薦の機関決定以後、後援会員の獲得、候補者等の講師による医療問題講演会の開催、候補者のポスター掲示、道医連ニュースの発行、支援団体との連携などを図り、候補者の周知と後援会員の獲得に努めた。獲得した後援会員数は目標3万人に対し、25,810人(86.0%)であった。

- ②6月に入り常任執行委員による選対会議を開催し、連盟員への更なる周知を図るためブロック毎に担当役員を配置し、郡市医師連盟、医療機関を直接訪問し、支援を呼びかけるとともに、郡市代表者会にてブロック別に打合せを行った。
- ③選挙活動として電話による投票依頼、期日前投票の活用の呼掛け、候補者名の記載の周知、連盟員家族や従業員票の確保、道議会議員・市議会議員への働きかけなどを要請した。あわせて道医連役員が道内各ブロックを分担のうえ訪問し、武見候補に対する支援を要請した。
- ④7月12日から7月28日まで、道医会館に電話10台を設置し、北海道柔道整復師連盟等の医療関連団体の協力を得て、役員・職員が各種名簿を元に投票を依頼した。

〔総 括〕

- ①日医連が武見候補を日医連の全国統一推薦候補として機関決定したにもかかわらず、これに反する行動をとったブロックがあった。このことが、今回の参議院選挙の大きな敗因のひとつであったと考える。
- ②今回の参議院選挙は、年金記録問題、閣僚の事務所費問題など国民の安倍内閣、自民党政治に対する不信が自民党大敗という結果に繋がった。
- ③後援会活動と選挙運動

ポスターの送付、後援会員名簿の送付と集計方法が煩雑であり、医療機関に多少の混乱と負担があった。後援会員名簿では2万5千名を集め、得票はその32%である8,016票であった。武見候補の実績を広く一般に広報するという点から、投票の確度が高い人を中心に後援会員を獲得するという今回の日医連のとした方法には疑問がある。また、講演会や激励集会などには多くの人を動員できても、それが必ずしも票に結びついてはいなかった。

医療関係団体を中心に中央では約30、北海道では15の団体に支援を要請したが、実質的に強い支援をいただいたのは北海道柔道整復師連盟と北海道鍼灸師連盟であった。今後は支援団体との連携のあり方についても十分考慮する必要がある。

道医連、郡市医師連盟が推薦した道議会議員に武見候補の支援を要請したが、積極的に支援に応えていただいた議員は少なかった。このことは、今後の課題の一つである。

道医連常任執行委員の担当者をブロック毎に決め、郡市医師連盟の役員会への出席、医療機関訪問などを行い、支援を要請した。今回の活動の中でも、先の西島選挙と同様に有効であったと考える。

全道7箇所まで延べ10回の激励集会を開催したが、現職の厚生労働副大臣ということから時間的に制約を受けたため、全道を網羅することはできなかった。候補者の実績と政策を有権者に直接届けることが重要と考えるが、地理的条件を考えると推薦候補者の広報活動については郡市医師連盟との一層の連携が必要である。

今回の選挙では、道医連と連携をとりつつ各郡市医師連盟独自の方法で活動いただいた。それらについては、改めて郡市代表者会においてご報告いただき、今後の活動の参考としたい。

〔今後の医師連盟活動について〕

北海道医師連盟としては、引き続き日本医師連盟と連携しながら、日本医師会が提言する医療政策の実現に向けて活動していかなければならない。今回の選挙は、年金問題に端を発した安倍政権への評価ばかりに焦点が当てられ、混合診療の全面解禁や医療費の総枠管理導入を阻止してきた武見氏の実績が伝わらなかった。ただ、武見氏の実績は評価しつつも、自民党所属議員ということで投票に消極的であった会員がある程度いたことも事実である。

政策を事前に国民に示して信を問う、いわゆるマニフェスト選挙への方向へと政策形成過程が変わりつつある現在、政党の医療政策に関する方針を十分に吟味し、政策決定への政治的働きかけとともに、政策を決定する議員を選出する有権者に直接働きかける広報活動にさらに工夫を加え、一層の強化を図らなければならない。

武見敬三氏の捲土重来を期するものである。

平成19年10月6日
北海道医師連盟

10月16日(火)、日本医師連盟執行委員会での武見敬三氏のご挨拶

去る10月16日(火)午後4時頃から日本医師連盟執行委員会が開催され、その冒頭に武見敬三氏が述べられましたご挨拶を掲載いたします。

武見敬三氏：

先の参院選挙では全国各地の先生方から心強い、本当に温かいご支援をいただいたことを心から御礼を申し上げる。しかし、実際、私の非力から議席を守ることができなかったことを、心からお詫び申し上げたい。しかし、私自身の政治家としての志にはなんら変わるものはない。こうした状況下においても、私自身の努力でできることは、すべてやろうという信念である。こうした中で、政策という観点での私自身の能力を、この際徹底的に改めて強化し、再び将来お役に立つときには、それをより大きく開花させるという努力をすべきであると考えようになった。幸いにも、ハーバード大学において医療制度の比較研究所に研究室を与えていただけたことになった。そこで、改めて国内的視点、そして国際的視点を含めて、医療に関わる政策というものを徹底的に勉強して将来に帰したいと思っているところである。初心に戻って、こうしたことを一つ一つ丁寧に、手掛けていきたいと思っている。

引き続きよろしくご支援とご指導を心からお願い申し上げます。

最後に改めて、7月の参院選挙においてご支援をいただいたことに対しお礼を述べさせていただきます。ありがとうございました。

日本医師連盟のホームページのご案内

日本医師連盟のホームページには、同連盟の組織や活動状況の紹介、日本医師連盟ニュース、同連盟と関係の深い国会議員の紹介等が掲載されております。

平成19年10月25日付、日本医師連盟ニュース第45号では、10月26日(火)開催されました日本医師連盟執行委員会の記事や参院選挙後の日医連執行部のロビー活動記録が掲載されておりますので、ご覧ください。

ホームページのURL <http://www.nichiiren.jp/>

西島英利参議院議員のホームページのご案内

西島議員のホームページには、氏の党内活動や地方での講演活動の報告やメッセージ等が掲載されております。直近の医療政治情勢も解説されながら逐次更新し掲載しておりますので、氏の活動をご理解いただくためにもぜひご覧いただきたいと思っております。

ホームページのURL <http://www.nishijimahidetoshi.net/>

北海道医師連盟ホームページ内の「西島英利議員活動報告」のご案内

西島英利参議院議員には、平成16年11月から「西島だより」を随時発行し、全国医師連盟に配付しております。現在は、都道府県医師連盟にはPDFファイルに変換してメール配信し、郡市区医師連盟には郵送されていると伺っております。

北海道医師連盟では、連盟員各位に同氏の国会活動等をご理解いただくために、当連盟ホームページ上に「西島英利議員活動報告」の欄を設け、掲載しておりますので、ご覧いただきたいと思っております。

直接のアドレスは以下のとおりですが、当連盟トップページ左上段の「日医連推薦国会議員等活動報告」の下「西島英利参議院議員」をクリックしていただきますと、該当ページを表示いたします。

ホームページのURL http://www.doiren.jp/profile_s/nishijima_hidetoshi.html

◇北海道医師連盟の活動状況◇

10月20日(日)、「自由民主党北海道政経セミナー」陳情会

10月20日(日)、札幌パークホテルでの「自由民主党北海道政経セミナー」に際し開催されました陳情会におきまして、当連盟から次の3項目にわたる要望書を提出いたしました。

1. 日本の医療と国民の安心を守るために

世界に誇る国民皆保険制度によって、わが国は世界第1位の健康長寿国となりました。

しかし、ここ数年、政府は財政危機を理由に財政優先による医療費削減政策を強行に行い、救急医療をはじめとする診療体制の縮小や、産科、小児科の休診・廃止など、地域医療はまさに崩壊の瀬戸際にあります。この広大な北海道においては、地域住民の健康を守ってきた医療機関も、公私を問わず過酷な医療費抑制策により倒産や閉鎖の危機にさらされています。

次々と実施される医療費の患者自己負担の引き上げは、受診控えに拍車をかけ、一方的な療養病床の削減は、行き場のない医療・介護難民を生み出すものと危惧されています。

つきましては、すべての国民が安心して等しく質の高い医療を受けることができるよう、世界に誇る「国民皆保険制度を守るため、次の事項について施策を講じられるよう強く要望いたします。

1. 国民のだれもが、いつでもどこでも平等に安心して受診できる、フリーアクセスのある皆保険制度を堅持すること。
2. 高齢者が必要とする療養病床を確保すること。
3. 小児化が進行する中、不足する小児科医や産科医、助産師、看護師などの医療従事者を国が責任をもって確保すること。
4. 医療格差を生む、患者の医療費負担増となる政策を是正すること。
5. 高齢者の費用負担増にならない後期高齢者医療制度を構築すること。
6. 医療に必要な財源を確保すること。

2. 社会保険診療報酬に対する事業税非課税措置の存続について

社会保険診療は、わが国の医療保障の大きな柱でありながら、その報酬は厚生労働大臣の定める公定料金であり、額も極めて低額に抑えられております。このことから社会保険診療報酬は、公共性、非営利性の強いものであり、これに事業税を課するのは医業経営を窮地に陥れるものであります。事業税の非課税措置が存続するよう強く要望いたします。

3. 控除対象外消費税問題等について

社会保険診療に関わる消費税が非課税のため、本来最終消費者が負担すべき消費税を医療機関が支払っています。近い将来、消費税率アップが政策課題として浮上しておりますが、非課税のままアップされますと▲3.16%という過去最大のマイナス改定で大きな打撃を受けている医療機関にさらなる追い打ちをかけ、倒産・閉鎖などが相次ぎ、地域医療に大混乱をきたすことが予想されます。われわれは、消費税制度本来の趣旨である税の負担は最終消費者が行うものという原理・原則に照らし、社会保険診療に対する消費税を、課税制度に改めるよう日本医師会を通じて要望してまいりましたが、実現しないまま現在に至っております。

つきましては、社会保険診療に対する消費税を「ゼロ税率」ないし「軽減税率」による課税制度にあらためるよう強く要望いたします。

10月31日(水)、自民党道連平成19年度団体政策懇談会

10月31日(水)、道議会自民党会議室での「自民党道連平成19年度団体政策懇談会」におきまして、当連盟では長瀬委員長、三宅副委員長、北野・原田・西里・直江・橋本各常任執行委員が出席し、自民党道連の政務調査会役員をふくむ道議会議員6氏に対して、次の10項目にわたる事項について、各担当役員が趣旨を仔細に説明のうえ要望いたしました。

北海道の平成19年度予算編成に関わる要望事項：

1. 医師確保対策について
2. 自治体病院等広域化・連携構想について
3. 道州制特区における保健・医療・福祉関連提案について
4. 療養病床再編に伴う入所施設の確保等と療養病床の転換への支援について
5. 救急医療体制の充実・確保について
6. 精神科医療について
7. 看護職員の確保対策について
8. 社会保険診療報酬に対する事業税非課税措置の存続について
9. 控除対象外消費税問題について
10. 乳幼児医療費助成制度について

これを受けて、自民党道連では、平成19年第4回定例会で、地域医療確保のための診療報酬改定、控除対象外消費税問題、精神科医療の3項目に関しての意見案につき議会採択に向けて、提出準備を進めていただいていることを、申し添えます。

11月24日(土)・25日(日)、国会議員に対する陳情

11月21日(水)、日本医師連盟の唐澤祥人委員長から都道府県医師連盟委員長宛に、週末に帰省予定の厚生労働政策に関係する国会議員に対して、地元医師連盟として陳情活動を行うようにとの緊急要請があり、指名のありました3氏に対して以下日程で陳情を行いました。

11月24日(土) 石崎 岳衆議院議員 13:00 札幌パークホテル (畑副委員長、藤原常任執行委員が対応)
11月25日(日) 伊達忠一参議院議員 11:00 札幌全日空ホテル (長瀬委員長、直江常任執行委員が対応)
11月25日(日) 吉川貴盛衆議院議員 13:30 札幌市北区吉川事務所 (長瀬委員長、直江常任執行委員が対応)

11月26日(月)、民主党北海道「08年度予算編成・制度改正に関する意見交換会」

民主党北海道総支部連合から、11月26日(月)に「08年度予算編成・制度改正に関する意見交換会」を開催するにあたり、当面する医療・介護問題をテーマとして当連盟と政策懇談を行いたいとの申し入れがありました。当執行部では医療問題については政府与党に限らず、広く理解を求める必要があるとの判断から、三宅副委員長、藤原・直江両常任執行委員が出席し、先に自民党道連に要望した10項目について仔細に趣旨を説明し要望いたしました。

発行所 北海道医師連盟 〒060-8627 札幌市中央区大通西6丁目6
TEL011-231-1433 FAX011-221-5070 <http://www.doiren.jp/>